

FM AICHI「AFTERNOON COLORS」防災スペシャル 株式会社くればあ 石橋衣理社長 インタビュー

SHOKO : SHOKO がお届けしています FM AICHI「AFTERNOON COLORS」さて、今日の FM AICHI は「FM AICHI 防災減災スペシャル」

防災の日である今日 9 月 1 日にいつ発生するか分からない自然災害に備えて、私たちが身近に心がけてできる防災減災についてお届けしています。「AFTERNOON COLORS」では、津波・水害に対する防災をテーマにお送りしていますが、この時間は愛知県豊橋市のメッシュ加工会社、「株式会社くればあ」の代表取締役社長、石橋衣理さんにお話を伺っていききたいと思います。

石橋さんこんにちは。

石橋 : こんにちは、どうぞよろしくお願いします。

SHOKO : よろしくお願ひ致します。さあ、早速なんですが、「株式会社くればあ」では、幅広い防災グッズの開発に力を入れていらっしゃるようですが、はい、大雨や水害時に役立つ防災グッズはどんなものがありますか？

石橋 : はい、建物や車庫を浸水から守る、薄くて軽い防水シートがあります。あと、防水シートを応用した自動車を丸ごとすっぽり覆う、水没対策の自動車カバーと、ウォールポケットとポンチョとリュックが一体となった魔法のポケットっていう商品があります。

SHOKO : ええ、そう、あの自動車カバーも大切ですね。やっぱり大事な愛車を守りたいという方、たくさんいらっしゃると思うので。

石橋 : そうですね。やっぱりあの自動車にすごく愛着を持たれている方とか、あと自動車がないと仕事ができない。あのお仕事の方とかもいらっしゃるの、はい。

SHOKO : そして気になるのが魔法のポケットですが、はい、詳しくどういうものなのか教えていただけますか？

石橋 : はい、この商品は日常生活ではウォールポケットとして、普段の生活で使う使うあの常備薬とかコンタクトですね。もうローリングストックしながら使って、災害時にはリュックやポンチョに変幻し、中身をそのまま持ち出すことができる、フェーズフリーの商品です。

SHOKO : おお！

石橋： えー、防災バッグの中身って、あの水や食料なんかが入ってると思うんですけども、もし避難したときに本当に必要なものって、防災バッグの中に入れないものもあるんじゃないかなと思い、普段とは違う生活を強いられる不安から、避難を遅らせてしまうのではないかと考えました。

SHOKO： なるほど。

石橋： はい、避難先でも普段の生活と変わらないものが手元にあれば安心できますし、早めの避難をしようと思えるのではないかなと考えて、このような商品にしました。はい、あのもし、水害時に避難する場合に大切なものが濡れてしまうといけないので、ポンチョは一体型にしています。また避難の際に、両手がふさがらないようにリュックタイプにしました。え、子供の手を握ったり、もっと小さい子だと抱っこして逃げることになるからです。はい。

SHOKO： 本当にそうですね。画期的ですね。

石橋： ありがとうございます。

SHOKO： あの確かにそもそも薬とかコンタクトレンズなどってというのは、普段はバラバラの。ところに置いてあるけれども、1箇所にとめておけば、非常時にそのまま持ち出せますもんね。

石橋： そうですね、ないと困っちゃうんじゃないかなと思います。

SHOKO： そうですね、しかもリュックになるし、ポンチョにもなるしって、本当に魔法みたいですね。

石橋： （笑）

SHOKO： この魔法のポケットを開発されたきっかけは何だったんでしょうか。

石橋： あのテレビで災害の悲しいニュースを見るたびに、どうしてもっと早く避難できないんだろう。どうしたら早め早めに避難所や安全な場所に避難する気持ちになる、なるんだろうなと考えました。え、その当時ですね。私は3歳の子供がいて、その中にはもう1人あの入ってたんですね。とってもつわりのひどい時期で、吐き気止めの薬が手放せない時でした。もし今、災害が目の前に迫っていて、小さい子を抱えて身をもの体で避難できるのかな。何がその足を重くしているんだろうと自分事として考えたときに、やはり普段の生活と変わる避難生活が不安で、できる限り家にいたいと思っちゃったんですね。はい。災害バックには緊急時の避難グッズは入ってます。でも水とか食料、だけじゃない普段の生活で使っているもの、まあ、食べているものっていうのが避難先でも手元にあれば、少しは安心して過ごせるのではないかな。そのためには避難先に持っていきたいものを、普段の生活の中でもひとまとめにしておける工夫が必要だと思ったのが、開発のきっかけです。

SHOKO : なるほど。

石橋 : はい、私自身がですね、目が悪いので、普段はコンタクトレンズを使用しているんですけども、まあ、眼鏡で生活している人っていうのは、そのまま装着して避難できるんですけども、コンタクトレンズの人って、避難先でまあ、目が見えない状態にいずれになってしまう、で、それってすごくストレスを感じると思うんです。そうですね。はい。あとはまあ、常備薬とか防災バッグに入れておけないけれども、避難先では絶対に必要だし、あとは肌が弱い子供の塗り薬がなかったらもう泣き叫ぶんじゃないかなって。もうそんなことを想像すると、やっぱり避難をすることを躊躇してしまうなあと思いました。まあ、その迷いをなくすためにもこの商品が必要だと思いましたし、普段から、災害時を想定して、どんなものが必要なのか、考えるきっかけにもなります。

SHOKO : うん、うん。

石橋 : はい。そして防災を意識することが日常になる生活していく中で、まあ、ローリングストックしながら普段使っているものを食べているものを、災害時でも手元に置くことができる、そんなものが作りたくて開発しました。

SHOKO : あーそうだったんですね。確かに、あの非常時のために最低限備えているものもあるけれども、それ以外のものが実は非常に大切だったりしますもんね。

石橋 : そうですね。

SHOKO : うん。だから、実際に石橋さんが細やかにシミュレーションして生まれた商品だから、はい、いざという時にあってよかったってなりそうですね。

石橋 : そうですね、そういうふうに思っただけでいいなと思って開発しました。

SHOKO : うーん。さあ！この魔法のポケットをはじめとした防災グッズは、防水グッズっていうのはどこで購入できるのでしょうか。

石橋 : くればあのオフィシャルサイトで購入が可能です。あとは、あの楽天とかヤフーアマゾンでも購入が可能になってます。はい、あの先にご紹介した自動車のカバーは、車の車種によって価格が変わってくるので、ホームページからお問い合わせいただければと思います。

SHOKO : うーん、大切な車をね、災害から守りたいという方も多いと思いますので、ぜひ皆さんチェックしてみてください。はいということで、FMAICHI 防災減災スペシャル。この時間は、愛知県豊橋市のメッシュ加工会社、株式会社くればあの代表取締役社長、石橋衣理さんにお話を伺いました。石橋さん、ありがとうございました！

石橋 : ありがとうございます！